

10月20日(火)

新しい名

聖書朗読 イザヤ56:4~5

わたしは勝利を得る者に隠れたマナを与える。また、彼に白い石を与える。その石には、それを受ける者のほかはだれも知らない、新しい名が書かれている。

ヨハネの黙示2:17

あなたには、特別な呼び名がありますか。「私の赤ちゃん」、「私の特別なあなた」、赤ちゃんでもないのに最愛の人にそう呼ばれたらどう感じますか。あなたの顔は嬉しさをくしゃくしゃになりませんか。そう呼ばれた瞬間、私は愛されていると感じるのではないのでしょうか。

私たちは、立派な目標を定めます。——教育、成功した結婚生活、子育て、スポーツや仕事で名声を得ること。しかし、イザヤ書によりますと、主にある私たちの目標は、少し違います。神様は、そういうこの世の目標ではなく、私たちが神様にあって本来置くべき目標を与えて下さっています。例えば、子供を持つ夢をあきらめた宦官は神様が喜んで下さることを選び神様に仕えました。この世での目標ではなく、主にある目標を達成することができました。

ヨハネの黙示録には、この新しい目標を、「新しい名」として書かれています。それはトロフィーに名が刻まれるのではなく、75年間結婚生活を続ける素晴らしさでもなく、自分の名を継ぐ子どもを持つことでもありません。イザヤ書56章5節でも「絶えることのない永遠の名を与える」と書かれています。つまり、その名を頂くとすることは、ただただ私たちが神様に属する、従うということを示すものです。わたしたちは神のものなのです。

私たちが掲げたこの世の目標を達成するのではなく、ただ神様を信じ、従っていくということを私たちの目標にし、神様が喜ぶことを選びましょう。

讚美歌 262

祈り 創造主であられる父よ。あなたの聖なる御名をかがめます。わたしのために特別な名前を用意してくださっていてありがとうございます。様々な選択肢の中からあなた様を選ぶ力を与えてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

マーク・K・フレンチ
カルフォルニア州 サンルイスオビスポ

10月21日(水)

誰もが招かれている

聖書朗読 イザヤ60:1~9

目を上げて、あたりを見よ。彼らはみな集まって、あなたのもとに来る。あなたの息子たちは遠くから来、娘たちはわきに抱かれて来る。そのとき、あなたはこれを見て、晴れやかになり、心は震えて、喜ぶ。 イザヤ60:4~5

母親というものは、体の片側だけで物を運ぶことができるものです。片側に抱えるのは、赤ん坊だったり子供用カーシートだったり洗濯かごだったりします。そして、もう片一方であらゆることをします。私は、3人の娘たちそれぞれを左側で抱えながら鍋を混ぜたり、掃除機をかけたり、右手でおもちゃを直したりしたものです。私は常に子供を抱えていましたから、実際に子どもの重みと家族を持つという責任という重み両方を感じていました。私の頭の中にも、心の中にも、時には腰にも家族の存在がいつもありました。

神様が私をいつも見てくださり、私の努力をご存知だということも分かります。また、小さい子供を持つ若い親たちを見て慈しんで下さっていることも知っています。神様は溢れるほどの愛で、神様の子どもたちを守り導いて下さっています。そして、イザヤ書60章4節では、誰もが主のみもとに招かれていることが書かれています。

私の娘たちがめぐみを理解している様子を見ると、神様の惜しみない愛がわかります。娘たちが大切にしているものを誰かにあげたり、病気の友達のために祈ったりするときに、神様の恵みが伝わっていることを感謝します。また、私たちだけではなく、周りにいる全ての人々を神様は招いて下さっているので、その神様の愛を人々にシェアしていきたいと思います。神様は、人々を慈しみ、深い恵みで満たし、私たちが他の人とその大なる愛を分かち合えるものをいつもテーブルにおいて下さっています。さあ、私たちの恵みを小さき子供たちに、また、周りの人々に分かち合ってください。

讚美歌 II150

祈り お父様。私たち若い親たちは自分の子どもをあなた様の身許に連れて行きます。どうかこの子育ての時期に必要な知恵と喜びを与えてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

アリサ・パルマー
テキサス州 ラボック

10月22日(木)

神の国を耕し直す

聖書朗読 エレミヤ 4:1~4

ゆりの花のことを考えてみなさい。どうして育つか。紡ぎもせず、織りもしないので。しかし、わたしはあなたがたに言います。栄華を窮めたソロモンでさえ、このような花の一つほどにも着飾ってはいませんでした。

ルカ12:27

私たちは、時折過去の傷に縛られる時があります。心を強張らせてしまう傷にしがみついている、そこにばかり焦点をあててしまい、現実を見ることができなくなってしまっ、今この時を感謝して生きていけないのです。

しかし、神様は、こうしてみてはどうですかとおっしゃっています。神様は過去の古傷や罪を掘り起こして、植え直すようにおっしゃいます。これはどういう事かという、古傷をもう一度開けて向き合いなさいという事です。古傷を掘り起こすことは簡単ではありませんが、固い土に植えても植物は育たないので、その堅い土を柔らかくしなければならぬということです。そして、肥料を与えたりして、新しい土にするのです。新鮮な土に耕し直し、素晴らしいものを植えましょう。あなたの人生でそれが成長していくのを見ていてください。神様は、それを叶えて下さるお方です!

この困難な大仕事は、知恵のある相談相手や信頼の置ける友人や信仰に満ちたクリスチャンと一緒にやるのが一番効果的です。信頼できる方に古傷を告白し、聴いて頂き、共に祈って頂くとき、神様によって古傷が癒されていくのではないのでしょうか。時間が掛かるかもしれませんが、可能です。そして、そのようなことを通して、耕し直し、強く成長できる機会を与えてくださる神様をほめたたえましょう。

まことに、主はユダの人とエルサレムに、こう言われる。

「耕地を開拓せよ。いばらの中に種を蒔くな。

ユダの人とエルサレムの住民よ。主のために割礼を受け、心の包皮を取り除け。」

エレミヤ4:3~4

讃美歌 148

祈り 父よ。わたしの罪を覆うために血を流して下さってありがとうございます。

新しい人生を楽しむことができますことを感謝いたします!

イエス様のお名前によって。アーメン。

ローリ・バイアスクラーク
ルイジアナ州 プリンストン

10月23日(金)

もし…でも愛するか

聖書朗読 ダニエル3:17~30

私たちが真実でなくても、彼は常に真実である。彼にはご自身をいなむことができないからである。
IIテモテ2:13

新婚の私たちは、「もし…でも愛するか。」と聞きあってふざけることがあります。ありえないような状況の中でもそれを克服できる強い愛が相手にあるかを聞きます。「もし鼻が額の真ん中についていたとしても愛したか。」お互いへの愛の強さは 前も今も変わらないのですが、即答できない時もある…その場合は ふざけっこは終了となります。

人間同士の関係を考えてみると、3人の仲間がネブカデネザル王に、火の燃える炉から神様が救って下さらないとしても神様を信頼する、と話したことは賞賛に値すべきことだと思います。人間にとっては賞賛に値するようなことであっても神様にとっては当たり前のことなのです。

もし罪を犯したら、もし信仰が弱くなってしまったらどうでしょう。キリスト様の模範に倣うことに失敗したらそれでも神様は愛してくださるのでしょうか。

もちろんです。もちろん!自信を持って言えます!大丈夫です!

神様は私たちが愛してくださっています。いつもそうでしたし、これからもそうです。私たちの弱さ、私たちの不信仰は神様をがっかりさせてしまうかもしれませんが、私たちが神様から離れてしまう時もあるかもしれませんが、不信仰ゆえに苦しんでいる時であってさえ神様の方から私たちに近づいて戻って来るように招いてくださいます。そういう時でも神様は愛してくださるのでしょうか。もちろんです!

讃美歌 461

祈り 主なる神よ。あなた様の変ることのない愛にいくら感謝してもしきれません。あなた様の愛の中で生きることに自信をもつことができますように。また、あなた様の愛の模範に自分が少しでも近づけますように。

イエス様のお名前を通してお捧げいたします。アーメン。

ドリュー・ベイカー
ノースキャロライナ州 ルイビル

10月24日(土)

神を知る事

聖書朗読 ホセア3

イスラエル人よ。主のことばを聞け。この地には真実がなく、誠実がなく、神を知ることもないからだ。
ホセア4：1

預言者ホセアの物語からは、あり得ないような状態の結婚に鮮明な神様の恵みを見ることができます。神様はホセアのように愛を与え守るためにご自分の民を探し求めておられます。しかし、イスラエル人は神様の愛から離れて行ってしまったのです。そして、自由を求め、何も得ることはなく奴隷へと成り下がってしまったのです。ホセアの物語を通して神の民に何代にも渡って神様が伝えようとしているのは、神を本当に深く知ること(神様の真実さ、神様の誠実な愛)が、私たちが知るべき一番重要なことであるということです。

私たちは特に聖書の学びに重きを置きます。それは大事なことです。なぜなら、神様の真実と愛に対して私たちの霊的な心が開かれるからです。神様を「深く知ること」は、私たちが求めるべき最も重要なことです。それは人格を変えます。神様がどのように愛するのか、神様がどう創造されたか、神様がどう赦すのか、神様が諦めないでいるかを見ることによって、私たちの他の人へ態度が変わります。

私たちが、神様ご自身について学ぶことを続けるようにとホセア書は教えています。神様のみことばを通して神様を学ぶことは、生涯続けたいことです。そうすることで、年を取っても心がワクワクします。不当な扱いを受けた時でも愛を持ち続けることができます。失望の中にあっても希望を持つことができます。神様を深く知ることを持続していきましょう。

讃美歌 366

祈り 主よ。あなた様ただお一人が私の心を変えてくださったと忘れてしまうことをお許し下さい。あなた様のことをもっと知ることができますように。
イエス様のお名前によって。アーメン。

S・ビル・ジメネツ
カルフォルニア州 サンフランシスコ

10月25日(日)

全ての人に愛と恵みを

聖書朗読 ヨナ4：4～11

心の一瞬によって、自分を変えなさい。
ローマ12：2

ヨナは神さまが大きな都ニネベを哀れんでいることを怒りました。一体どうしてヨナは神様に怒っているのでしょうか。ヨナは何を恐れているのか、という質問の方が的確でしょうか。

怒りは、恐れや不安を表す最も分かり易い方法です。それでは、ヨナは何を恐れていたのでしょうか。これは私の想像ですが、もしかしたら、ヨナは精神的に「私たちとニネベの人たちとの違い」ということで悩んでいたのかもしれませんが。私たちは、知らないうちに自分たちと似ていない人たちと自分との間に線引きをしてしまいます。

他の人と同じでないことは恐ろしいことです。ですから、自分と似ている人たちのグループに入り、そこに安全を見出すのです。しかし、自分たちのグループが排他的になり誰をグループに入れるか入れないかを言い出したら、ヨナのように恐れる気持ちを持つことになりはしないでしょうか。

ある人気作家が、「私たちは彼らの見方では見ない。私たちは自分たちの見方で見る」と結論づけていました。私たちは物事を本来のまま見るように変えていただく必要があります。「私たち」も「彼ら」もなく、存在するのは、「キリスト」だけです。イエス様がこの世に来られたのは、誰がグループに入れて誰が入れないかを宣言するためではありません。イエス様は、私たちの考えを変えることによって、私たちが変わり、恐れから解放され愛の人となるために来られたのです。神様の愛と恵みは大いなる平和をもたらすのです。

讃美歌 495

祈り お父様。どうか、私たちを変えて下さい。私たちの心を変えて下さい。そうすることによって、私たちはキリストが全てであるというあなたの御国の中で生きていくことができます。
主の御名によって。アーメン。

チャック・ブライアント
テキサス州 ラボック